



OB会報

湘南サッカー一部OB会報 第26号

たくさん多くOBがプレーを！

OB会々長 36回生 井上 孝

このところ、シニアサッカーは急速に盛況となってきた。都道府県横断的な大会としては、日本サッカー協会主催の全国シニアサッカー大会をはじめ、恒例となってきた各地の大規模の大会、厚生労働省主催のねんりんびっく、そして関東各県における60歳以上の大会が開催されている。また神奈川県では40歳以上のシニアサッカー・リーグは各カテゴリー総計で、参加81チーム(ペガサスは4チーム)があり、年間のリーグ戦は465試合となるほどである。

この誌面でもご覧のとおり、わがOBの中で少なからぬ人がこれに関わっている。「湘南サッカー」のHPには、湘南クラブ、トトカルチョ湘南、ペガサス・ジュニア、ペガサス・シニアA、ペガサス・シニアB、ペガサス60と6チームの活動が掲載されている。これらは、20歳台から70歳台まで、各チームおおむね10〜15歳くらいの年齢差で構成されているチームである(ただし、シニアA、Bはそれぞれ50歳代前半と後半が基準である)。メンバーが各チーム平均30名としても、総勢180名となる。一応「湘南

サッカー」の枠内でこれだけの人数がプレーをしているわけだが、メンバー全員がわがサッカー部OBというわけではない。どのチームもある代の湘南OBが創設したものとはいえ、現メンバーではOBは全体の半数ぐらいであろう。OB会員はいまや900名近くに達するのであるから、ここでプレーをしている者は約一割に過ぎないことになる。もちろん、全国に散らばっているOBで、他のサッカークラブに所属している者もいるであろうから、一概に、これだけとは言えないかもしれない。

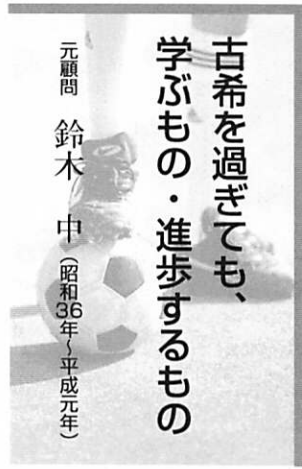
さて、県内では高校サッカー部のOBを主体としたクラブもみられるが、大規模の大会となると、多くは選抜チーム構成である。一高校のOBがメンバーの半数以上を占めるクラブは湘南ぐらいであろう。このことは蹴球祭を象徴として、いつまでもプレーをするという伝統と、OBのサッカーを愛する心のあらわれであり、特筆すべきわが湘南の誇りであろう。11月23日、恒例のFUS大会(近年、湘南・教育大付属・神戸であるが)においても、22回の

矢住直亮先輩、23回的小林忠生先輩(メルボルン五輪日本代表)がお元気なプレーを見せてくださった。ペガサス60では、いまや70歳以上のOB9名が毎週のごとくプレーされており、25回の川島元信先輩は今年喜寿を迎えられたが、立派なゴールキーパー振りである。より若い、多くのOBができるだけ長くプレーをしてほしいのである。

シニアの中で、湘南OBとの繋がりがもつとも強いのは、湘南ペガサスであろう。40歳以上を入会資格とし、いまや120名余のメンバーを擁するが、ご存知のように、このクラブは、湘南高校サッカー部との特殊な関係を有している。すなわち、その会則の第3条「会の目的」の項で、「本会発祥の趣旨に鑑み、…湘南高校サッカー部の発展に資すること」としている。つまり、現役支援を謳っているわけである。決して排他的になるということではないが、できるだけOBに参加して欲しいのである。

湘南高校が冬の高校選手権に出場を果たした最も近くは1989年であった。いまや200校を越す参加数のおかげで神奈川県代表になることは大変であるが、湘南サッカーの名をまた見た。OBも負けずに、いや現役を支援鼓舞する意味でも、全国シニア大会に常時出場できるようにがんばりたい。2

011年には、創部90年を迎える。それまでに、現役もOBも全国大会への出場を是非達成したいものである。



元顧問 鈴木 中 (昭和36年〜平成元年)

古希を過ぎても、 学ぶもの・進歩するもの

最近下手な「お絵描き」に夢中である。理由は3つある。

- 1、健康で元気で天気が好いと「描こう」と言う気持ちが強くなる。
- 2、専門家の一口アドバイスで大きく絵の世界も開けてくる。
- 3、少し絵が解かってくると、益々描きたくなる…

この3点が大きな理由だと思いが、人間70歳を過ぎても一寸したアドバイスで進歩(言い過ぎか?)、いや変化するものだと思うようになってきた。師匠である「倉岡さん」が手厳しい批評をしてくれる中で、「中さん、陰影の影の部分暗すぎるよ、少し明るい色を使う方が、絵に味が出るのでは…」こんな一言が大きく絵の世界を変えてくれる。(指導者の一言が人を育てる…)

つい最近水泳の練習で、「背泳ぎ」と「バタフライ」25メートルをやっと泳げるようになった。スイミングの指導者が「中さん、手のカキカタが違っていい。船の櫂の先のようにして、動かす」即ち「足は柔らかく、手は硬く」サッカーのキックで身につけてしまった足首の固定はそう簡単には直らない、しかし手首の使い方は言われたとおりに出来てきた。まか不思議、進むようになったら足の力が抜けてきた。(70歳を過ぎても新しい技術を習得出来るのだ…)

さてサッカーはどうだろう70歳のサッカーはあるだろう。出来る人が羨ましいと思う事もあるが、でも相手が居て勝たなければ「サッカー」にならない。即ち対敵動作のあるスポーツは体力と走力とパワーが勝負を決める。(膝を痛めた私には無理だと悟った)しかしゴルフ、水泳、スキー等のスポーツはまだまだ可能性があると思っている。だから下手なゴルフもエイジシユートを夢見て、水泳の個人メドレーでマスターズの大会に、そしてスキーはモンブランで滑ること！を夢見ても良いでしょう(年寄りの勝手な言い草かもしれない…)

こんな事を感じている最近の生活だが、湘南のグラウンドには試合のある時

は必ず顔を出すようにしている。サンデー毎日の生活にやっと慣れたので、サッカーを真剣に考える余裕が出来てきた。私のサッカーの原点は「高校サッカー」の指導だと思っている。(28年間も立って来た湘南のグラウンドの土は誰よりも愛着が深い)「クラマー」のサッカーは今でも生き続けている。(サッカーは紳士を育てるスポーツである…)(湘南が全国大会へを夢見て)



27回生 山本 修

ペガサス70才以上の活動

シニア年令サッカーが年々盛んになり、湘南ペガサスの70才以上メンバーは、以下の高令者対象行事に参加した。

1. 70才以上の大会

福井ロイヤルエイジ大会には、昨年まで湘南OBクラブの名称で参加していたが、今年第6回大会は「湘南ペガサス70」を編成して参加した。そのほか、70才以上対象の以下の大会に参加した。
全国シニア大会
三木市 5/19・20

東日本ロイヤルエイジ
那須 6/9・10
福井ロイヤルエイジ
三国町 9/9・10
関東シニア70交流会
平塚 11/17

2. ロイヤルサッカー東西対抗戦

1月20日国立競技場で、全国から70才以上145人が集まり、年令層別に10チームが編成されて東西対抗5試合が実施された。湘南ペガサスから14人が参加し、それぞれの年令別試合に出場した。

最高令のチームは76才以上で編成され、2番目の高令の73〜75才チームには、川島(25回)、酒井、鈴木(26回)、栗原、山本(27回)の5名が出場した。

3. 県協会シニア交流会

県協会主催のシニア交流会は、70才以上を対象に企画され、参加人数確保のため68才以上許容として、4月から12月まで、平日の月2回の合計17回、平塚馬入人工芝グラウンドで開催された。60雀リーグ参加7チームから、湘南ペガサスは単独チーム編成、他の6チームからの参加者は、小田原・茅ヶ崎えぼし・赤羽根連合、横浜・YK・神奈川連合の連合2チームを編成して対戦

し、湘南ペガサスは年間合計32試合27勝3分2敗の好成績でした。

4. 60才以上大会のロイヤルゲーム

各種の60才以上大会の付帯行事として、70才以上対象のロイヤルゲームと称して親善紅白試合が開催されている。

刈谷大会では、昨年まで紅白戦連合チームに部分参加していたが、今年は湘南ペガサス70の単独チームとして出場したほか、以下の大会にも参加した。

リーグ横浜 保土ヶ谷 7/14・28

リーグ横浜 保土ヶ谷 8/25

刈谷スパーエイジ大会 9/15・16

関東シニア埼玉大会 熊谷 10/21

FUS交流会 仙川 11/23

県協会シニアフェスタ 善行 11/24

5. その他の高令者対象の行事

各種の60才以上大会の付帯行事として、高令者対象行事がいろいろな年令制限で開催され、湘南ペガサスは以下の行事に参加し、70才以上メンバーも出場した。

第4回清水大会 67才以上 3/16~18

リーグ埼玉 65才以上 4/8

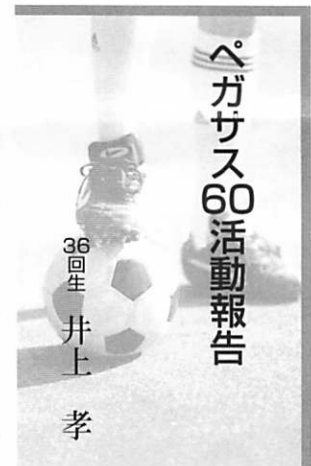
リーグ栃木 66才以上 7/7・8

リーグ横浜 66才以上 7/28

関東シニア埼玉大会 65才以上 10/21

関東シニア大会市原 65才以上

12/1・2



ペガサス60は60歳台前半とそれ以上という2チーム運営をすることが多い。以下は、前者の活動報告である。その活動は、大きく分けると4つになるが、これらの中で、07年の実績は以下のとおりである。

1. 県60雀リーグ戦(12日間 12試合)

2. 関東シニア交流戦(9日間 22試合)

3. 関東シニア選手権 兼 全国シニアサッカー大会関東予選

(2日間 4試合)

4. 全国シニアサッカー大会(2日間 3試合)

5. 各種大会(招待試合、等)(13日間 22試合)

1. 県リーグ戦

ペガサスと力が拮抗しているのは、えはし、YKぐらいで、あとは勝てる相手であったが、とくに神奈川との対戦の2敗は残念であった。6月の当該対戦の

際には、出席者不足で9名で戦わざるをえなかった。最終結果の3位は、不本意で、やはり県リーグの中で最初にオーバー60を結成した老舗チームとして、その存在を示すべく、来年度は是非優勝を目指したい。

2. 関東シニア交流戦

関東のオーバー60では、やはり埼玉・千葉・東京が強豪であり、湘南はなんとかこれらに肩を並べようとしている。ただし、ここでも問題は参加選手数であり、12~14名のときが多い。遠征の場合、とくに1日2試合、2日で4試合の連戦になると疲労が溜まり、交代要員の多いチームが結局勝ちをうることになる。

3. 4. 関東選手権・全国大会

この2大会が2007年度の特筆すべきイベントであった。両大会は、日本サッカー協会主催であり、シニアのもっとも権威あるものである。全国大会の開会式には、日本協会を代表して、釜本氏が出席した。まず、関東予選は千葉県市原市において、各都県1チームずつの8代表が、2ブロックに分かれ、予選リーグ。湘南は山梨60、群馬FC60を降して、強豪埼玉に惜敗。グループ2位で3位決定戦に臨み、PK戦の末、勝利し、関東3代表の最後の切符を手にした。次いで、兵庫県三木市で

の全国大会には、全国各ブロックから16チームが集まり、4ブロックに分かれてリーグ戦を行った。ここでも、湘南は両日とも12名であり、結果は、1分2敗とよくなかった。

5. 各種大会

葦崎大会は、長野、清水と破ったが、地元葦崎がメンバーをそろえて強敵であった。1-1の引き分けであったが、得失点差でグループ2位となり、Bグループ2位の八王子に勝って、三位となった。

さて、以上を概観するに、かりに全試合に出場したとするなら、なんと38日間、60数試合ということになる！これに対応するには、本来30名ぐらいのメンバーが必要である。ペガサス60の構成をみると(2007年4月1日現在)、

70歳以上 16名

66~69歳 10名

61~65歳 18名

(60歳 6名 2007年度中に60歳になる者)

なる者)

のようであり、一見、60歳台半ばを境に、大変バランスがとれているように思われ、数的には、多くの試合数に対応できそうであるが、カップを争う大会となると、各チームとも60歳代前半のメンバーで出場する。こちらも実質、61~65歳で組むとなると、ほぼ必ず出席す

るメンバーは8〜9名、60歳の6名は順次登録できるものの、いまだ仕事の関係もあって、1〜2名が来られればよいほう。そこで、年長組の応援を求めたり、場合によっては(否、それがむしろ多いのだが)12〜13名ぐらいで2日間を戦うことになる。この人数を増やすのが、来年度の課題である。

さて、最後に、ペガサス60にとってその活動の原動力になっているのは、牧村英樹君(37回)である。今期の監督として、チームの編成、試合のプランをたて、試合ではゲームメーカー、ポイントゲッターとして八面六臂の活躍ぶりである。ほぼ全試合に出場する強靱な体力は驚くべきもので、11月の葦崎大会では、ついに対戦相手から年齢詐称の疑いまでかけられる始末(理由は、60歳台では、幾試合もあんなに動けるはずがない、と!)。因みに、同君はペガサス会長として、クラブ全体の発展に大いに力を発揮されている。

ペガサスシニアB報告



42回生 阿部 裕

平成19年度は、60歳以上の4名が60雀主体となつて抜けた形となったが、シニアAから若手?3名が加わり、さらに北原さんの紹介で待望のGK佐藤さんが加入、昨年の反省点を改善して優勝を目指そうと、神奈川県50雀2部リーグのシーズンを迎えました。昨年は開幕戦で一方的に攻めながらつまづいたことが尾を引いて最悪のシーズンになってしまったが、その反省を踏まえて慎重にスタート、昨年3位で苦手の「いわさき」と互角に戦い、引き分けのまずまずのスタート。守備では3戦まで無失点、攻撃面でも昨年は7戦目まで無得点でしたが、3戦目で早くも?2得点と順調な立ち上がりが出来ました(結果は下記参照)。

- 4月 7日 いわさき 0対0
- (相手GKの好守で惜しくも引き分け)
- 4月21日 栄光 0対0
- (折原さんの応援を得てようやく12名での戦い)
- 5月12日 中沢 2対0
- (今期最多の16名で快勝)
- 6月16日 赤羽根 0対1
- (互角の勝負も、唯一のミスを決められ惜敗)
- 6月23日 西湘 1対2
- (中央突破を許し、終盤の猛攻も惜敗)
- 7月21日 ウィット 2対1

(若い相手に快心のゲーム)

- 9月15日 川崎 0対0
- (味方GKの好守を生かせず、不満の残り引き分け)
- 9月17日 グランパ 3対0
- (牧村さんの先制で快勝)
- 9月29日 浅野・藤沢 0対3
- (季節外れの寒さ中、前半で3失点の完敗)
- 10月13日 県庁 0対0
- (交代なしの11名も、勝てた試合)
- 10月27日 多摩 0対1
- (台風接近中の中、怪我人を含む11人での善戦)

結局リーグ戦は、11試合3勝4敗4分、得点8、失点8で、12チーム中7位の成績。

内容としては、無失点試合が12試合中6試合あったが、無得点試合も8試合あり、0対0の試合が4試合あったことを考えると、昨年より改善はされたが、やはり昨年同様決定力が、また昨年の反省から高い位置での守備を心掛けたが、足の速いFWへの頭越しのパス対策も来年度の課題の一つだ。

その他の公式戦としては、全国シニアの予選リーグ(下記参照)残り2試合は、来年1〜2月の予定)。

- 8月4日 神奈川ドリーム 0対1
- (関東代表の強豪相手に怪我人を含む

11名で、残り4分まで0対0の大善戦)

- 10月25日 神奈川ドリーム 0対3
- (防戦一方の試合も、3失点ともGKの佐藤さんがいれば防げた?)
- もう1試合の公式戦:県議長杯トーナメント1回戦は、
- 11月24日 横須賀 0対1
- (胃の手術後2ヶ月の伊通さん及び怪我人2人を含むぎりぎり11名しかもGK不在で善戦も、FKからの失点で惜敗)。

来年度は、「多摩」、「いわさき」は1部へ昇格、「茅ヶ崎ウエスト」、「綾瀬」が1部から降格、2チームが新規加入予定で、全14チームとなる予定である。

ペガサスシニアA報告



46回生 森 秀樹

今年、シーズン初めに次の目標を立てました。

1. 楽しく、怪我のないサッカーをする。
2. 2点取られても、3点取って勝つ。
3. 全員守備、全員攻撃。

全員守備

1. 前線から強烈なプレッシャーをかける。
2. 最終ラインを高い位置に保つ。全員攻撃
1. トップにボールを当て、落としたボールをMFがシュート、または、ダイレクトでスルーパス。
2. サイドバックがライン沿いに加って、アーリー・クロスを上げる。

これまでの戦績を報告します。

神奈川県シニアリーグ

ペガサスシニアAは、県シニアリーグ五十雀一部(全12チーム)に所属しています。今シーズンは既に全試合を消化しました。

シニアリーグ前半

6月末までは2敗3分。バックは比較的安定しているのですが、点が取れません。フォワードに所謂「点取り屋」が不在で、1試合1点がやっと。何とか引き分けには出来るのですが、なかなか勝てません。片目を開けることが出来ないままリーグ戦前半終了。

シニアリーグ後半

9月に入って綾瀬に0対1で負けたものの、茅ヶ崎ウエストに4対0で完勝。これで波に乗るかと思いましたが、相性の良かったはずのボロンズには何と0

対5で完敗。この時点で、1勝4敗3分けと大きく負けが先行する苦しい展開になりました。しかし、ここから快進撃が始まり、残りの3試合を完封。1対0で3連勝。すべて前半に先取点を取り、後半は逃げ切るという形でした。最終的には4勝4敗3分けで全試合終了。今年のシニアリーグの最終成績は6位でした。

試合前半の、それも出来るだけ早いタイミングで先取点を取ることがチームに自信を持たせ、逆に相手の勢いを止めるということを再確認した次第。兎に角、先取点です。

全国シニア予選リーグ

予選リーグ1試合目の相手は平塚。2対1で勝ち。先取点を取って有利に試合を進め、一時は追いつかれたものの、最終的には突き放しました。2試合目は、対赤羽根。この試合、良い形で攻めるもなかなか得点できず、結局前半の1点を守りきって勝利。予選リーグ残りの2試合は、いずれも順当に行けば勝てる相手。何としても全勝で予選リーグを突破して、決勝に進みたいところでは。

県議長杯トーナメント

1回戦、ウイットグラウンドマスターズに

セットプレーで先行しましたが、その後2点を取られ逆転。しかし、後半同点に追いつき、2対2のまま試合終了。PK戦の末、7対6で勝利して2回戦に進みました。逆転で勝ったのは今季これが初めてです。

シニアAは粘って勝つ自信ができてきました。次の試合も勝つぞー。

先日のFUSサッカー交流会での大先輩の方々のプレーを見ていて、自分も十年後に先輩諸氏のようにボールを蹴っていられるだろうかと考えましたが、正直なところ自信がありません。

今は、五十半ばを過ぎててもペガサスの一員としてサッカーが出来る事に感謝し、そして、それを支えてくれている(黙認してくれている?)家族に感謝したいと思います。



ペガサスジュニア 報告

52回生 志水 利彰

ペガサスジュニアの監督を引き継いで

三年目の五十二回生 志水です

先ず今期のリーグ戦の結果から報告します。四十雀三部リーグに所属していますが、六勝四敗一分、十二チーム中で五位という結果でした。試合の内容は、昨シーズン後半から採用している3バックの守備が安定して機能ししっかりと守備で奪ったボールを大事に中盤でつないで穴を見つけて鋭く攻撃する というパターンがメンバーの共通理解となり、どの試合も落ち着いた試合運びができたと思います。特に初戦で強豪中沢に対して5-0と大量得点で勝利したことが、自信となってシーズン通して心理的に楽に試合を進められた要因となりました。(初戦終了時点で、首位に立ちました)

第二戦以降は、昨年の経験で各チームの戦い方のパターンの予測が付くようになったことで、下位チーム、実力均衡のチームにはキツチリと勝つことができました。上位チームとの対戦では体力、スピードで圧倒されることもありましたが全員の頑張りで何とか失点を四点以内に抑えました。どの試合も十五から二十人近くの参加者で(一試合は十一人ぎりぎりでしたが)平均年齢の差を人数でカバーする形でした。皆さん仕事でお忙しい上、家庭サービスとも両立しなければならぬ中で、や

りくりして参加して下さいありがとうございます。ございました。来年も急な若返りはのぞめないで、今年度同様 よろしくお願ひします。

試合内容で特徴的だったのは 得点パターン、得点者が偏らず 色々なパターンと人が得点して 幅の広い攻撃ができたことです。リーグ戦での得点者は八人、アシスト者は九人でそのパターンもロングシュート、ミドルシュート、大きなセンターリングからのボレーシュート、一発抜け出しているドリブルシュート等 皆さんの個性が発揮された攻撃の結果の得点でした。これは先に述べた落ち着いた試合運びが結果として結びついたのだと思います。来シーズンもこの戦い方をすれば 四十雀でのペガサスらしい試合、皆さんが楽しめる試合ができ 結果も付いてくるでしょう。ジュニアの皆さん 来年も今年の試合をベースにもっと試合を楽しめるように頑張りましょう。

○七年の振り返りはこれくらいにして 最後にこのOB会報を読まれている四十前後の方々にお願ひです。戦績報告の中にも述べましたがジュニアへの新規の湘南OBの参加が少なくなっています。ちょっとやってみようかなと思われた方は 遠慮なく私か石郷岡さんに連絡を下さい(メールが確実です 私

のアドレスはshimibu@aol.comです)。お正月の蹴球祭も良い機会だと思ひます。一度どんなもんか見に来て下さい。私の経験ですと四十前後から再度サッカーをやり始めると言うのはちよつと勇気がいるし初めは筋肉痛がでたりするのですが それも慣れてしまえば 年に十数試合公式戦をするという事で体調を維持する目的ができて それが健康に繋がるようです。

活動はリーグ戦が中心になりますがその他にお正月の蹴球祭、夏の現役交換会、ペガサスの各年代が集結するペガサス祭り等々 いろいろな年代の方々との交流できる楽しい機会もあります。勇気ある皆さんの参加をお待ちしています。



トトカルチヨ湘南は、卒業後も湘南の仲間たちと真剣なサッカーがしたいという思いを持った者達が集まり、楽しくかつ真剣にサッカーをすることを motto に活動を行っている。今年は大

社会人をはじめとし環境がかわるメンバーが多く、またそれを補う新戦力を補強することができないままリーグ戦に突入してしまい序盤から連敗を重ねる結果となった。6月によく新メンバーを向かえようやく初勝利をあげることができたものの、夏場以降も引き続き人数が揃わず、チーム戦術や戦い方以前に試合を行うのがやつとという異常事態が続いた。終盤に入りさなる新メンバーの獲得・怪我人の復帰などもようやく体制は整えたものの、序盤の悪い流れを払拭することができず、結局神奈川県3部リーグへの降格をよぎなくされた。

トトカルチヨ発足以来の屈辱を味わった今期だが、幸い来年はメンバーの大半が来期も首都圏に残るため、終盤にわずかにでき始めたチームとしても基盤を熟成させ、来期は1年での2部を目指し、そして将来的には1部への返り咲きを目標に活動を行っていく。

しかし、新しいスタートを切るためには新しい力が必要であり、今後活動も継続していくためにもトトカルチヨは新しいメンバーを募集しています。卒業後も真剣にサッカーに取り組みたいと思っている人、継続的に練習および試合に参加することができる人は、ぜひOB会や同期生を通じてトトカルチヨの門

をたたいてもらいたい。ともにトトカルチヨの再建を担ってくれる人の連絡を待っています。



今年度のチームは守備的なチームとしてスタートしました。1月の新人戦では守備の完成度は高く、選手11人のそれぞれのマーク、カバー、スペースの埋め方などは満足のいく内容でした。しかし、一人の中心選手の退部で守備が崩壊し、2月からチームを建て直しましたが、満足なチームにならず関東予選、総体予選といい結果が得られませんでした。

4月には新入生を25名迎え、6月には3学年がそろったチームになり、選手権予選に望みましたが3回戦で若さと経験不足で敗退してしまいました。

8月の合宿からは3年生が引退し、新チームとなりGKコーチに高橋君、Bチームコーチに篠塚君が加わり、練習も充実しました。Aチームは大学、社会人などの練習試合を経験し、成果

を上げて夏休みを終わることができま
した。

9月下旬からはU17リーグ、新人
戦のリーグ戦と12月24日まで試合が続
き、落ち着いてチームを見直す時間が
なく、ほとんどメンバーが固定していま
す。新人戦は県大会第4シードで出場
権を獲得しました。1月19日から始ま
ります。

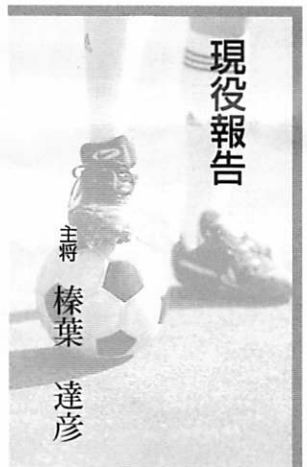
U17リーグは12月8日現在2勝1
敗1分で、勝ち点7を獲得し降格圏は
クリアしました。これから3試合を
残し昇格を目指したいと思います。

以上のようにチームの1年間は切れ
目なく公式戦があり、選手の負担は大
変なものです。

学校のほうは学力重点進学校に指定さ
れ補修、講習の数が増えました。来年
度は土曜講習が入って部活動が制限さ
れそうです。またメディアにも取り上げ
られる事も多くなりました。文武両道
の精神を生かしつつ進学実績を上げる
ということです。

この3月は2年に一度のスペイン遠征
の計画があります。3月26日〜4月5
日までの9泊11日の予定で準備を進め
ています。OBの皆様方には日頃から
温かく見守っていただき、大変感謝して
おります。今後ともご支援を賜ります
よう、よろしくお願い申し上げます。

現役報告



寺 榛葉 達彦

はじめに、いつもOBの方々には物心
両面にわたりご支援いただきありがと
うございます。部員一同、この恵まれた
環境の下で練習できることを大変幸せ
に思っています。

新チームとなり、はや5ヶ月が経ち
ました。例えば、僕らのスタートは「悔
しさ」からでした。夏の選手権予選、あ
と2戦勝てば二次予選進出という大事
な試合(対藤沢西)で前、後半ともに収
支押し気味で試合を運んでいたにもか
かわらず、一つのミスと一瞬の油断から
2点を失い、負けてしまいました。それ
は今まで味わったことのない、悔しい敗
戦になりました。この「悔しさ」は練習
への取り組み方を改めて考え直させる
機会になりました。また、チームも一
つにまとまるきっかけにもなりました。
その結果、菅平合宿、大学・社会人と
の練習試合を通じて力を養うことがで
きました。

現在はU17リーグを戦っています。
1敗しているものの、残り試合に全力

を尽くし、何とか一部昇格を果たした
と思います。また、年明けには新人
戦の中央大会が始まるので、ここでも
皆様の期待に応えられるように精一杯
頑張りたいと思います。

春休みには楽しみにしているスペイン
遠征があります。この機会にもっと深
くサッカーを学び、チーム全体が一段
と成長したいと考えております。

まだまだ未熟な僕達ですが、清水、
鈴木両先生や、OB高橋・篠塚さんの指
導のもと、日々練習に励んでいます。今
後とも、応援のほどよろしくお願いし
ます。

07年度 公式戦の記録

関東大会予選

横浜隼人 0-0

PK 1-3

インター杯予選

森村学園 6-0

瀬谷 1-1

PK 5-4

淵野辺 0-3

選手権予選

上郷 3-0

藤沢西 1-2

新人戦

藤沢工科 7-0

鶴沼 4-0

大船 2-0

慶應藤沢 0-0

(県大会出場決定)

湘南工科 2-0

鎌倉 0-3

七里が浜 2-0

U17

慶應義塾 3-0

川崎北 4-0

三浦 3-4

山手学院 0-0

40雀に参加を!

48回生 関 佳史

40雀リーグは年々、盛んになってお
り、神奈川県シニアリーグは現在50
チーム4部でやっています。40歳以上の
神奈川県登録は2,000人で、全
国では13,000人です。神奈川県は日本
で最も盛んな地域になっています。ペガサ
スは、高齢化が進んでいるため、3部
の中位くらいです。40リーグ

は日曜、50オリーグは土曜に開催ということになっています。シニア・リーグのHPアドレスは下記ですのぞいてみて下さい。http://www.kanagawa-seniorleague.jp/

さて、湘南ペガサスジュニア(40歳以上)の新規加入が減少し、45歳以下の湘南OBで活動している人がいなくなりました。現在、全体で実質25、6名ですが、実働している湘南OBは、関(48回)、元松(49回)、石郷岡(51回)、八木、志水(52回)、田中(53回)、藤塚、鈴木、中村(54回)といったところで、54回生が今年46歳です。関東大会に出場した59回生や、国体優勝の61回が入部してこないとなると、湘南高校OBチームという本筋が維持できなくなることもあり。来期以降に、湘南OB以外のメンバーに相当数加入してもらわないと、試合が成立しなくなる恐れがあります。

このあと、64回を中心としたトトルチヨ世代が40歳になるのがあと3年ほどです。66回から57回のみなさんに、改めて、入部を呼びかけたいと思います。

このアンケートは35歳から45歳の皆さんに出しています。今後のOBチーム(ペガサス)の活動の検討のため、OBの皆さんのサッカーへの関わり具合を知る

ため、もし現在参加も検討中、或いは、今はだめでも近い将来参加する意向のある人の情報を得るためのものです。是非、ご協力をお願いします。

お忙しい中とは思いますが、1月10日(木)までに投函いただくようお願いいたします。

また、1月13日の蹴球祭の午後の部は35歳以上に参加を呼びかけますが、30代で20代とはやりたくないという方についても、参加を拒否するものではありませんので、ボールを蹴りに来てください。

<見本>

40歳サッカーアンケート
湘南OB会報の本文を参照してください。このアンケートは、40歳から50歳の皆さんに出しています。今後のOBチーム(ペガサス)の活動の検討のため、OBの皆さんのサッカーへの関わり具合を知るため、もし現在参加も検討中、或いは、今はだめでも近い将来参加する意向のある人の情報を得るためです。
(1) 40歳(あるいは、今後)になったら、湘南ペガサスに加入し、サッカーをしたいですか?
□ YES □ NO
- 必ずと答えたい(その理由を併記して下さい)
□ サッカーはできない。(体力、年齢的な理由)
□ 少年などを教えていて時間が足りない。
□ 日程が合わない、都合がつかない。
□ 湘南ペガサス以外のチームでプレー中。
(2) 湘南ペガサスに参加したいですか?
□ 自分だけ、という。
□ 少年などに教えている。(含むフットサル)
□ その他
□ 全くかかわっていない。
(3) 性別、年齢情報(記入は任意)
性別: _____ 年齢: _____
氏名: _____ 所属: _____
電話番号: _____
メールアドレス: _____
1月10日(木)までに投函して下さい。

編集後記 48回生 関 佳史

2世選手活躍

「今年の1年生は期待しているんですよ。」3月に清水先生にお会いしたときの第一声でした。マリノスなどのユース出身選手も入学し、5、6名が計算できるとのことでした。1年生の2世選

手では、46回の榎原さん(旧制安部さん)のご子息が中盤でレギュラー格です。父親の榎原さんは、俊足の右ウィングで、相手バックと競走したらほとんど負けない選手でした。湘南クラブでも数年活動されていました。また、48回のラグビー部瓜谷さんのご子息がCFで、得点源として1年ながら多くの点をとっています。2世選手の活躍に注目してください。なお、現在、藤塚さん(54回)のご子息は、今年大学に入学し、湘南高校のコーチ役として、週に数回、清水先生のサポートを行っています。

スペイン遠征

08年3月には、スペイン遠征を行なうことが決定しています。恒例となつているアスレチック・ビルバオ・ユースとの試合に加えて、今回はレアル・ソシエダ・ユースとの試合が組める見込みだそうです。アスレチック・ビルバオは純粋にバスケ人でチームを構成しながら常に中位をキープしています。レアル・ソシエダは、今シーズンは2部に落ちましたが、02-03シーズンは1部でレアル・マドリールと優勝争いを演じるなどの名門チームです。いまはリバプールのシャピアロンはバスケ人でレアル・ソシエダの出身、韓国代表のイ・チョンスがこのチームに一時在籍していました。

OBから国会議員が誕生!

56回生の水戸将史さんが2007年7月の第21回参議院議員通常選挙に、民主党公認で神奈川県選挙区から出馬し、初当選しました。善行小、藤沢一中出身で、慶應義塾大学商学部を卒業、その後就職。春日一幸氏、田中慶秋氏の秘書を経て、1995年に神奈川県議会議員選挙に初当選。以後、3期連続当選、民主党神奈川県連の幹事長などを歴任。この間、番場先輩(自民党)、小泉先輩(社民党)とサッカー部から三人の県会議員が在職した時期がありました。

今回の参院選では、神奈川県3人区に民主党が2人候補をたてる方針で、水戸さんは他の候補より遅れて立候補を表明し、当初は不利といわれていました。しかし、年金問題などの追い風に乘つて見事に挽回し当選を果たしました。鈴木中先生をはじめ、OB有志の応援もあり、地盤の横浜市泉区とその周辺、藤沢市では多くの得票を獲得しました。参議院議員としての今後のさらなる活躍が期待されます。

事務局 関のメールアドレス変更です。08年1月から、下記となります。seki6644@yahoo.co.jp